



TOKYO 2020

東京2020組織委員会の主な活動報告（2019年）

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

2020年3月27日

目次

1. 東京2020大会の概要
2. 競技会場
3. 競技スケジュール
4. テストイベント
5. 開会式・閉会式
6. 聖火リレー
7. 機運醸成に向けた取組み
8. 子どもの参画
9. 持続可能性
10. 大会ボランティア
11. 大会チケット
12. メダルデザイン
13. 復興に関する取組み
14. 組織委員会予算V4

1 東京2020大会の概要

競技日程

オリンピック(17日間)

7月24日
~8月9日

パラリンピック(13日間)

8月25日
~9月6日

選手数

オリンピック

11,090人

パラリンピック

4,400人

競技数・種目数

オリンピック

33競技 339種目

パラリンピック

22競技 539種目

会場

全数

43会場

うち
都外

19会場



職員数

現在(2020年2月1日時点)

3.4千人

大会時(予定)

8.0千人

ボランティア

12万人以上

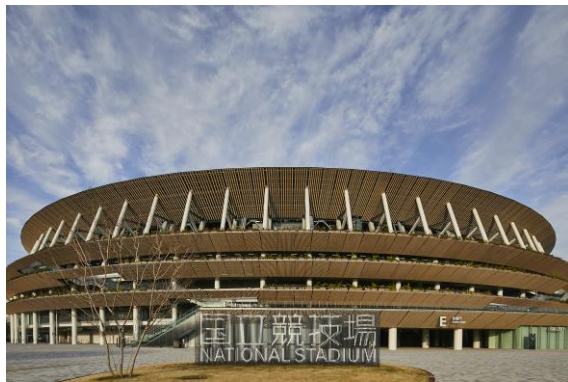
大会ボランティアのほか、
都市ボランティアを含む。

2 競技会場

- 競技は東京1964大会のレガシーを引き継ぐ**ヘリテッジゾーン**、都市の未来を象徴する**東京ベイゾーン**のほか、**地方会場**で実施。（約40%が地方会場での開催。）
- 2019年11月にマラソン・競歩の会場が札幌市に変更となり、最終的にオリンピックは**42会場（33競技）**、パラリンピックは**21会場（22競技）**となった。
- 青海、お台場、有明地区において、祝祭空間を創出する**アーバンクラスター構想**が進展。
- 晴海に選手団が宿泊する**選手村を建設**。

【 競技会場等例 】

オリンピックスタジアム（陸上競技・サッカー）



選手村予定地（東京都中央区晴海）



会場詳細は、東京2020組織委員会HPを参照
<https://tokyo2020.org/jp/games/venue/>

3 - 1 競技スケジュール（オリンピック）

- 史上最多 33 競技 339 種目が 42 の競技会場で繰り広げられ、絶え間ない熱狂が 17 日間に凝縮されたエキサイティングなスケジュール。
- 野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング及びサーフィンの 5 競技について、追加競技として実施。
- 大会中盤、多くの観客とテレビ視聴者の注目を集める 8 月 1 日（土）には、21 種目でメダリストが決定。

【 競技スケジュール例 】



競泳（東京アクアティクスセンター）

7月25日（土）～8月2日（日）



体操競技（有明体操競技場）

7月25日（土）～7月30日（木）
8月2日（日）～8月4日（火）



ラグビー（東京スタジアム）

7月27日（月）～8月1日（土）

- オリンピック競技スケジュール（種目実施日程）の詳細は下記URLに記載。
<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/olympic/>

※ 競技スケジュールは今後の調整により、一部変更になる可能性があります。

3-2 競技スケジュール（パラリンピック）

- 8月25日の開会式翌日から9月6日の閉幕まで、12日間にわたり22競技539種目が21会場で実施。
- バドミントン及びテコンドーの2競技について、追加競技として実施。
- 大会全体を通じて盛り上がりが続くよう、人気競技がバランスよく配置。

【競技スケジュール例】



車いすテニス（有明テニスの森）

8月28日（金）～9月5日（土）



車いすラグビー（国立代々木競技場）

8月26日（水）～8月30日（日）



ゴールボール（幕張メッセCホール）

8月26日（水）～9月4日（金）

- パラリンピック競技スケジュール（種目実施日程）の詳細は下記URLに記載。
<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/paralympic/>

※ 競技スケジュールは今後の調整により、一部変更になる可能性があります。

4-1 テストイベント

- 本大会の成功に向けて、競技運営及び大会運営の能力を高めることを目的として、各競技団体や東京2020組織委員会などが主催でテストイベントを実施。
- 2020年2月1日時点、全56回のうち37回※が実施済み。

※ 2018年度実施分（2回）含む。



東京2020組織委員会主催のテストイベントで使用するロゴデザイン

【テストイベントスケジュール】

2019						2020				
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
WAVE 1（22競技）			WAVE 2（12競技）			WAVE 3（20競技）				



Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

【テストイベントの実施状況】

- ・ 本大会に向けて学びとなる事例はあったものの、MOC（メインオペレーションセンター）で判断を要するようなレベルの問題は発生していない。
- ・ 競技運営は、既存・新設会場とも各競技概ね円滑に実施されており、IFからの評価も概ね良好。

4-2 テストイベント（暑さ対策の試行）

【暑さ対策検討の全体方針】

1 東京2020大会に向けた暑さ対策の全体像

⇒ 対象者ごとに、場面ごとに、国や東京都、IOC、IF/NFと連携して実施

2 対象別の暑さ対策

(1) アスリート向けの暑さ対策 (2) 観客向けの暑さ対策 (3) 大会ボランティアを含む大会スタッフ向けの暑さ対策

3 今夏の取組みを来年度に活かす

暑さ対策検証内容

暑さ対策検証内容	
アスリート向け	<ul style="list-style-type: none"> 大会本番時を想定した各競技の暑さ対策 空調付きアスリートラウンジ、水・氷の提供、アイスバス、スポットクーラーおよびミストファンの設置などの基本的な暑さ対策 その他、競技特性に応じた個別の暑さ対策
観客向け	<ul style="list-style-type: none"> 疑似PSA待機列 WBGT値計測 ファーストレスポonder巡回 注意喚起 暑さ対策グッズの配布 クールオフスペース 降雪機 待機列の誘導オペレーション検証 大型冷風機、扇風機の運用、携帯型ミスト噴霧 テント内外、観客席、木陰、スタッフ用本部、乗降場での計測 熱中症予防、水分補給を促すスタッフ巡回 体調不良者早期発見、医務室との連携 声かけ、丸型穴あきチラシ配布 ネッククーラー、丸型穴あきチラシ等の配布(ラストマイル) 室内WBGT値計測、利用者状況 降雪機による効果検証、WBGT値計測
大会スタッフ向け	<ul style="list-style-type: none"> 休憩の取り方 暑さ対策グッズの配布 一部会場で休憩のローテーション方針を提示し実施。 ボランティアにアンケートを行い、適切な休憩時間について検証。 全会場で飲料水、一部会場で塩分補給製品、汗拭きシート、冷却シート、アイスクリーム、体調管理シートを配布。 ボランティアにアンケートを行い、グッズの有効性を検証。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> テストイベントページでの注意啓発情報発信試行 国と連携したアンケート調査 自転車競技（ロード）（マウンテンバイク）のテストイベントページで、熱中症注意喚起情報を発信。 環境省、観光庁の御協力のもと、訪日外国人向けアンケートを実施。

5 開会式・閉会式

○ 4式典を一体と捉え、統一あるものとするために全体のプラン・ストーリーを作成していく。

<4式典のあり方>

【オリンピック開会式】

- ・国内外からの注目度が非常に高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の萌芽である。
- ・東京2020大会の担う歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトに鑑みて4式典を貫くポジティブなメッセージを世界に発信する。

【パラリンピック開会式】

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市であり、中でも開会式は世界中の注目を集める機会である。
- ・違いを認め合い、支え合い、活かすあうことで、多様で平等な共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

【オリンピック閉会式】

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。また、アスリートに限らず、人々の心に感動を残した方々も讃えたい。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、国を超えた一体感を生み出す。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。

【パラリンピック閉会式】

- ・パラリンピックのフィナーレであるとともに、東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレでもある。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

<演出企画の実施体制> (敬称略)

氏名	肩書等	制作体制	氏名	肩書等	制作体制
野村萬斎	狂言師	チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター (東京2020大会総合)	川村元気	映画プロデューサー／小説家	クリエイティブ・ディレクター (東京2020総合チームメンバー)
山崎貴	映画監督	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター (オリンピック担当)	来栖良依	クリエイティブプロデューサー クリエイティブディレクター	
佐々木宏	クリエイティブ ディレクター	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター (パラリンピック担当)	椎名林檎	演出家・音楽家	
			MIKIKO	演出振付家	

6-1 聖火リレー

- オリンピック聖火リレーコンセプト 「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」
- パラリンピック聖火リレーコンセプト 「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」



2020年3月20日(金)宮城県の航空自衛隊松島基地に聖火を届ける、東京2020オリンピック聖火特別輸送機“TOKYO 2020号”



2020年3月26日(木) 福島県の「ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」にて聖火リレーがグランドスタート。

東京2020オリンピック聖火リレー 各都道府県 実施日一覧

都道府県名	日 程	都道府県名	日 程	都道府県名	日 程
① 福島県	3/26(木)~3/28(土)	①⑦ 鹿児島県	4/28(火)~4/29(水)	③③ 富山県	6/3(水)~6/4(木)
② 栃木県	3/29(日)~3/30(月)	①⑧ 沖縄県	5/2(土)~5/3(日)	③④ 新潟県	6/5(金)~6/6(土)
③ 群馬県	3/31(火)~4/1(水)	①⑨ 熊本県	5/6(水)~5/7(木)	③⑤ 山形県	6/7(日)~6/8(月)
④ 長野県	4/2(木)~4/3(金)	②⑩ 長崎県	5/8(金)~5/9(土)	③⑥ 秋田県	6/9(火)~6/10(水)
⑤ 岐阜県	4/4(土)~4/5(日)	②⑪ 佐賀県	5/10(日)~5/11(月)	③⑦ 青森県	6/11(木)~6/12(金)
⑥ 愛知県	4/6(月)~4/7(火)	②⑫ 福岡県	5/12(火)~5/13(水)	③⑧ 北海道	6/14(日)~6/15(月)
⑦ 三重県	4/8(水)~4/9(木)	②⑬ 山口県	5/14(木)~5/15(金)	③⑨ 岩手県	6/17(水)~6/19(金)
⑧ 和歌山県	4/10(金)~4/11(土)	②⑭ 島根県	5/16(土)~5/17(日)	④⑩ 宮城県	6/20(土)~6/22(月)
⑨ 奈良県	4/12(日)~4/13(月)	②⑮ 広島県	5/18(月)~5/19(火)	④⑪ 静岡県	6/24(水)~6/26(金)
⑩ 大阪府	4/14(火)~4/15(水)	②⑯ 岡山県	5/20(水)~5/21(木)	④⑫ 山梨県	6/27(土)~6/28(日)
⑪ 徳島県	4/16(木)~4/17(金)	②⑰ 鳥取県	5/22(金)~5/23(土)	④⑬ 神奈川県	6/29(月)~7/1(水)
⑫ 香川県	4/18(土)~4/19(日)	②⑱ 兵庫県	5/24(日)~5/25(月)	④⑭ 千葉県	7/2(木)~7/4(土)
⑬ 高知県	4/20(月)~4/21(火)	②⑲ 京都府	5/26(火)~5/27(水)	④⑮ 茨城県	7/5(日)~7/6(月)
⑭ 愛媛県	4/22(水)~4/23(木)	③⑰ 滋賀県	5/28(木)~5/29(金)	④⑯ 埼玉県	7/7(火)~7/9(木)
⑮ 大分県	4/24(金)~4/25(土)	③⑱ 福井県	5/30(土)~5/31(日)	④⑰ 東京都	7/10(金)~7/24(金)
⑯ 宮崎県	4/26(日)~4/27(月)	③⑲ 石川県	6/1(月)~6/2(火)		

6 - 2 聖火リレー

聖火リレートーチデザイン

- 日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフ。
- 素材の一部に東日本大震災の仮設住宅のアルミ廃材を再利用。
- 新幹線の製造にも使われている製造技術（アルミ押出成形）を使用。

オリンピック聖火リレートーチ パラリンピック聖火リレートーチ



色：桜ゴールド

色：桜ピンク

聖火ランナーユニフォームデザイン

- オリンピックユニフォームは、日本らしさとともに、聖火リレーから東京2020大会の本大会につないでいく、その連続性を表現。
- パラリンピックユニフォームは、人と人、人と社会が繋がることで生まれる輝きを、大会ルックである市松模様をもとにデザイン。



オリンピックユニフォーム



パラリンピックユニフォーム

聖火ランナーの募集状況

- パートナー4者（コカ・コーラ、トヨタ自動車、日本生命、NTT）と、都道府県で聖火ランナーを募集した結果、延べ535,717名の応募（2019年9月）
※ 現在、募集は終了
- 2019年12月25日より、応募者本人へオリンピック聖火ランナー正式決定を連絡。

7 機運醸成に向けた取り組み

- 一人でも多くの方が参画し、大会をきっかけにした成果を未来につなげるため、オリンピック・パラリンピックの機運を醸成。

主なイベント	取組内容
東京2020参画プログラム	様々な組織・団体が東京2020大会の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、オールジャパンで取り組む参加型のプログラムを実施（2016年10月～）。 2019年12月末時点で約139,000件を認証。
東京2020 NIPPONフェスティバル	参画プログラムの集大成として世界から注目が集まる時期に東京2020大会公式文化プログラムとして、大規模な4つのプログラムを通して我が国の誇る文化を国内外に強く発信（2020年4月頃～）
オリンピック1年前セレモニー/パラリンピック1年前セレモニー	国内外からゲスト(オリンピック・パラリンピアン、東京2020聖火リレー公式アンバサダー等)をお招きしたセレモニーを行い、1年後にやってくる大会に向け一体感を醸成（2019年7月・8月）
東京2020公式ライセンス商品	全国各地の伝統工芸品を東京2020公式ライセンス商品化。全国各地の伝統工芸品を商品化して文化的側面からも機運醸成を図っている。



1 Year to Go!



8 子どもの参画

【主な取り組み】

- 史上初、**大会マスコットを小学生の投票**で決定。16,769学校・205,755学級（全国の小学校の約8割）の児童たちが参加。
※ 小学部を置く特別支援学校や海外の日本人学校、国内の外国人学校、不登校児童が通う施設等を含む。
- オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校を東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校（愛称「**よいう、ドン！スクール**」）として認証。
※ 2019年12月1日時点で、全国約18,219校を認証済み。
- 平和な世界に向けてスポーツの果たす役割をテーマとした、**東京2020高校生英語スピーチコンテスト**や、運動会や体育祭等におけるオリンピック・パラリンピックに関連した取組を募集し表彰する**みんなのスポーツフェスティバル**の実施。
- 学校連携観戦プログラムとして、チケットを一律**2,020円**で、**子供たちに観戦機会**を提供。（100万人以上の小中高校生に、大会へ観戦に来てもらう試み。）
- セキュリティチェック時に設けるフェンスの代わりに、地元子ども達が育てたアサガオ等にメッセージを添えて並べる「**フラワーレーンプロジェクト**」の実施。
- IPC公認教材である「**I'mPOSSIBLE（アイム・ポッシブル）**」を全校配布。
※ JPC・IPCの取組み



ミライトワとソメイティ



東京2020オリ・パラ教育実施校



ソメイティとともに、
花が咲く日を楽しみに

9 持続可能性

大会の持続可能性コンセプト 「Be better, together (より良い未来へ、ともに進もう。)」

国連とのSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名

2018年11月14日、国際連合と東京2020大会を通じたSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名。

国際連合とSDGsについて基本合意書を締結するのは、歴代のオリンピック、パラリンピック組織委員会として初めての試み。

東京2020大会の持続可能性の取り組み例

1. 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

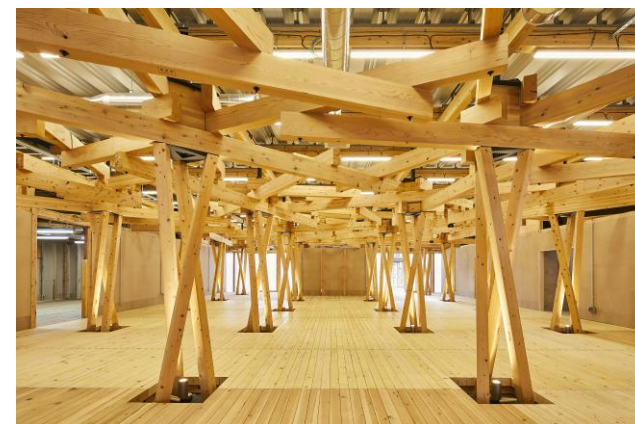
使用済みの携帯電話をはじめとする小型家電等から東京2020大会の入賞メダルを製作。

2. 日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

参加自治体（全63自治体）から借り受けた木材を使用して選手村ビレッジプラザを建設し、大会後は各自治体にて木材をレガシーとして再活用。

3. 表彰台プロジェクト ～みんなの表彰台プロジェクト～

国内から集める使用済プラスチックの再生利用を基本に、海洋プラスチックも一部活用して表彰台を製作。



2020年1月末時点ビレッジプラザ内覧会の写真

10 大会ボランティア

- 東京2020組織委員会が募集し、競技会場や選手村、その他大会関連施設で、観客サービスや競技運営のサポート、メディアのサポート等、大会運営に携わる活動を実施。
- 応募完了者は204,680人（大会ボランティアマイページ登録者数262,437人）

募集概要（抜粋）

- ・ 募集人数：80,000人（2002年4月1日以前に生まれた方（18歳以上の方））
- ・ 活動期間・時間：10日以上を基本とし、休憩・待機時間を含む1日8時間程度

- 2019年7月19日（金）の発表イベントにて、フィールドキャスト（大会スタッフ）及びシティキャスト（都市ボランティア）のユニフォームが決定。
- 2019年10月から始まる共通研修において、大会本番に必要な知識・スキルを習得するとともに、フィールドキャストの一員としてのマインドを醸成。

【共通研修の概要】

- ・ 対象者：大会ボランティア約8万人
- ・ 期間：2019年10月～2020年2月
（海外在住者向けは2020年6月以降）
- ・ 開催場所：東京、北海道、宮城、福島、茨城、富山、静岡、愛知、大阪、広島、福岡
- ・ 男女比：男性39%、女性61%（10代～80代まで幅広く参加予定）
- ・ 国籍：日本国籍88%、日本国籍以外12%（約120の国と地域の方が参加予定）



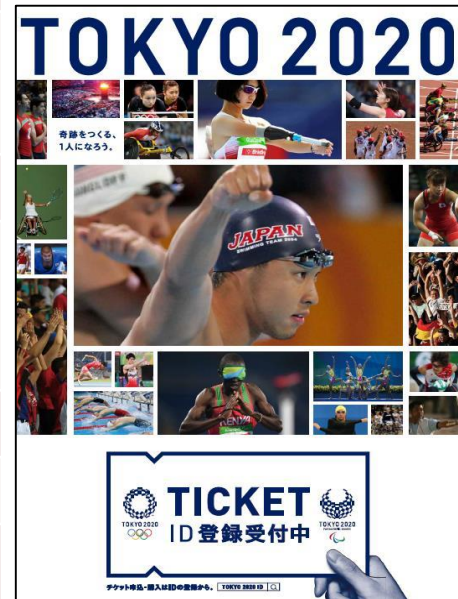
ユニフォーム発表イベント

11 大会チケット

○ 東京2020大会公式チケット販売サイトを通じて大会観戦チケット抽選申込を開始。

チケットの価格	開会式	閉会式	競技一般チケット
オリンピック	12,000円～300,000円	12,000円～220,000円	2,500円～130,000円
パラリンピック	8,000円～150,000円	8,000円～90,000円	900円～7,000円

チケットスケジュール		
オリンピック	2019年5月9日～5月29日	第1次抽選販売（約322万枚）
	2019年8月8日～8月19日	第1次抽選の追加抽選販売（約35万枚） ※第1次抽選で1枚も当選しなかった方対象
	2019年11月13日～11月26日	第2次抽選販売
	2020年春～	<ul style="list-style-type: none"> 公式チケット販売サイト 街なかのチケット販売所 公式リセール
パラリンピック	2019年8月22日～9月9日	第1次抽選販売（約60万枚）
	2020年1月15日～1月29日	第2次抽選販売
	2020年春～	<ul style="list-style-type: none"> 公式チケット販売サイト 街なかのチケット販売所 公式リセール



※大会計画や競技スケジュール等により、価格や販売開始時期等は変更となる場合があります。

12 メダルデザイン

- メダルは「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を通じて、全国の皆様からご提供いただいた使用済み携帯電話等の小型家電から抽出した金属を用いて製作。
- 東京 2020 オリンピック、パラリンピック それぞれの1年前セレモニーにてメダルのデザインを発表。

【東京2020オリンピックメダルデザイン】



- ・ 光や輝きをテーマ。
- ・ 無数の光を集めて反射させ、アスリートや周りで支えている人たちのエネルギーを象徴。
- ・ 多様性を示す、様々な輝きをもたらすデザイン。
- ・ メダルの輝きは、世界中の人々が手をつないでいる様子もイメージ。

【東京2020パラリンピックメダルデザイン】



- ・ 人々の心を束ね、世界に新たな風を吹き込む「扇」をモチーフにしたデザイン。
- ・ 扇を束ねる「要」部分に、人々の心を束ねるアスリート自身を表現。「扇」面に、人々の心を生命力として捉え、日本に生きる自然を表現。
- ・ 金、銀、銅メダルの違いが触れて分かるよう、メダル側面に円形のくぼみ加工。大会史上初めての仕様。
- ・ 「TOKYO2020」の文字をおもて面に点字で表記。

13 復興に関する取組み

オリンピック聖火リレー

- 聖火リレー開催に先立ち、ギリシャで採火した聖火を「復興の火」として東日本大震災の被災3県（岩手、宮城、福島）で順次展示。聖火トーチの素材には、東日本大震災の仮設住宅のアルミを一部使用。
- オリンピック聖火リレーの出発地を福島県とするとともに、被災3県については、各県3日間を設定。

福島あづま球場・宮城スタジアム

- 福島あづま球場で野球・ソフトボールを実施。宮城スタジアムでサッカーを実施。
- 2020年7月22日、福島あづま球場のソフトボールが、オリンピックの全競技のスタートとなる。

復興のモニュメント

- 東日本大震災の仮設住宅のアルミを使用し、被災地からのメッセージを載せたモニュメントを、被災3県に1つずつ設置し、被災地と世界を結びつける。
- 被災地の中高生によるワークショップでデザインイメージを決定。大会後は被災地においてレガシーとして継承。

若手アスリート参画プロジェクト

- 被災地で行われたイベントにアスリートを派遣し、スポーツ等を通して被災地の子どもたちとの交流を実施。

14 組織委員会予算V4

○組織委員会予算V4(バージョン4)を公表。(2019.12.20)

○東京都と国が負担するその他の経費のうち、東京都分はV3 から競歩の競技会場変更に伴う30 億円減の5,970億円、国分はV3 同額の1,500 億円で合計7,470 億円となり、組織委員会6,030 億円と合わせた大会経費の支出計は1 兆3,500 億円で、V3と同額。

【参考】 経費分担試算(V4 予算)

	組織委員会	東京都	国	支出計
会場関係	1,870 億円 (400 億円)	4,960 億円 (200 億円)	1,400 億円 (200 億円)	8,230 億円 (800 億円)
恒久施設	—	2,260 億円	1,200 億円	3,460 億円
仮設等	1,010 億円	2,020 億円	} 200 億円	} 4,770 億円
エネルギーインフラ	160 億円	330 億円		
テクノロジ	700 億円	350 億円		
大会関係	4,060 億円 (200 億円)	910 億円 (100 億円)	100 億円 (100 億円)	5,070 億円 (400 億円)
輸送	410 億円	300 億円	} 100 億円	} 5,070 億円
セキュリティ	330 億円	520 億円		
オペレーション	1,240 億円	90 億円		
管理・広報	650 億円	0 億円		
マーケティング	1,250 億円	0 億円		
その他	180 億円	0 億円		
調整費(組織委員会) / 緊急対応費(東京都)	100 億円	100 億円	—	200 億円
支出計	6,030 億円 (600 億円)	5,970 億円 (300 億円)	1,500 億円 (300 億円)	13,500 億円 (1,200 億円)
予備費	270 億円			

(注1) 予期せず発生し得る事態等に対処する必要が生じた場合、関係者は役割分担に応じて対応する。

(注2) ()は、うちパラリンピック経費分である。

みんなの輝き、つなげていこう。

Unity in Diversity



The Worldwide Olympic Partners



Tokyo 2020 Olympic Gold Partners



The Worldwide Paralympic Partners



Tokyo 2020 Paralympic Gold Partners





アクション&レガシーレポートについて（概要資料）

専門委員会でお伺いしたい内容

- アクション&レガシーレポート策定に向けて、各章の構成や記載内容を具体化した概要資料に対する、各委員の皆様からのご指摘やご意見を幅広い観点から頂戴したい。

アクション&レガシーレポート(暫定版)

全体構成

挨拶等

第一章 はじめに

第二章 スポーツ・健康

第三章 街づくり・持続可能性

第四章 文化・教育

第五章 経済・テクノロジー

第六章 復興・オールジャパン・世界への発信

第七章 東京2020参画プログラム

第八章 東京2020 NIPPONフェスティバル

※参画プログラム一覧は、ホームページへの掲載をもってかえる。

第一章 はじめに

目次と主な内容

1 アクション&レガシーレポートについて

- ・東京2020大会をきっかけとして生まれた取組（アクション）やその成果を、未来につながる（レガシー）ため、2016年にアクション&レガシープランを策定
- ・アクションの成果やレガシーについて、アクション&レガシーレポートとしてとりまとめる

2 オールジャパンでの取組

- ・東京2020大会に一人でも多くの方が参加し、オールジャパンで盛り上げる体制を構築
- ・組織委員会のみならず、関係団体と連携しながら取組を推進

3 各柱を横断する視点

- ・「参画」と「レガシー」は5本の柱の共通理念
- ・東京2020大会は同一都市で2回目のオリンピック・パラリンピックを開催する初の大会であり、パラリンピックの成功を通じた共生社会の実現を目指してきた

4 今後の取組

- ・東京2020大会後も、東京都、政府、JOC、JPCをはじめとする様々なレガシーの担い手により取組が実施されることで、レガシーとして未来につながっていくことを期待
- 東京都**：大会開催の影響等を、レガシー・レポーティング・フレームワークを活用し発信
- 政府**：平成27年11月に閣議決定した「オリパラ基本方針」にレガシーの創出と発信を掲げており、ロンドン大会の取組を参考に検討を進めている

5 本レポートの構成

第二章 スポーツ・健康

基本的な考え方

スポーツの力でみんなが輝く社会の実現に向けて

「スポーツには、世界と未来を変える力がある」の大会ビジョンのもと、「スポーツの力」を活かし、誰もが自分の持つ力を発揮して、みんなが「輝く」（活躍することのできる）社会を目指す

レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> アスリートとの触れ合いを通じて、大会や競技に関する知識・関心が向上する取組を実施（「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー小中学校訪問イベント」等） 大会やスポーツ参加へのエンゲージメントの強化（「東京2020みんなのスポーツフェスティバル」、「東京2020Let's 55」等） 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ実施率向上 「健康経営」認知度向上 スポーツに関するボランティア活動の参加率向上 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ参画人口の拡大 「Sport in Life」の実現 スポーツ（運動）の力による健康寿命の延伸
アスリートが活躍する社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> アスリートとの交流促進（「若手アスリート参画プロジェクト」「アスリート・スペシャル・トークセッション」等） アスリートのキャリア形成・活用のしくみを産学官・地域の連携により構築（「アスナビ」） アンチ・ドーピングの推進などスポーツ・インテグリティ確保の分野で、世界に範を示す 	<ul style="list-style-type: none"> JOCによるアスナビ企業説明会の開催回数・参加アスリート数の増加 アンチ・ドーピング教育の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> アスリートの育成と活躍の推進 スポーツ・インテグリティの確保
パラリンピックを契機とした共生社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> プロモーションの強化や実際にスポーツを体感できる機会の創出 障がいのある人もない人もスポーツを通じて交流する機会の創出や障がい者への理解促進につながる取組を推進（「スポーツ共生まつり」等） 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツ実施率の向上 障がい者スポーツ観戦者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツのファン拡大 障がい者スポーツの環境整備 共生社会に向けたアプローチ

第三章

街づくり・持続可能性

基本的な考え方

(街づくり) 東京2020大会の競技会場や会場周辺地域、様々な広域社会インフラの整備や、大会後のスポーツ施設有効活用、大会期間中の都市マネジメント、共助の体系、大会開催時の市民のおもてなしやボランティア活動による自主的な社会参加など、大会を契機として有形・無形の貴重なレガシーが蓄積されるように取り組む。

(持続可能性) エネルギー効率の高い脱炭素社会など日本の優れた側面を世界に示すと同時に、東京2020大会の準備及び開催に伴う温室効果ガスの削減や様々な資源の利用・廃棄物の抑制等に十分配慮する。また、大会を契機に世界の人々と持続可能な社会のビジョンを共有し、将来を担う子どもたちに持続可能な社会に向けた一歩をどう残すのかを考え続けていくことが重要。

	レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサル社会の実現・ユニバーサルデザインに配慮した街づくり 魅力的で創造性を育む都市空間 都市の賢いマネジメント 安心・安全な都市の実現 	<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人への対応の強化 東京2020大会後の利活用を見据えた選手村の整備 施設、言語及び情報面でのバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の促進 日本各地でのICT活用による、東京2020大会と連携した地域交流及び地域活性化の実現 	<ul style="list-style-type: none"> Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドラインの策定・活用 ハード面及びソフト面でのバリアフリー化の促進 東京2020大会を契機とした都市基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> 新規恒久施設をはじめ、道路や輸送関連、会場周辺等のインフラ整備、有効活用 「おもてなし」精神の日本全国各地への定着及び継承 共生社会の実現に繋がる「心のバリアフリー」や「ユニバーサルデザインの街づくり」の推進
持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な脱炭素都市の実現 持続可能な資源利用の実現 水・緑・生物多様性に配慮した快適な都市環境の実現 人権・労働慣行等に配慮した事業活動の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能性への取組を着実に推進するためのマネジメントシステムの導入 環境負荷を低減し、持続可能性の実現に向けた取組を実施（「みんなの表彰台プロジェクト」、「みんなのメダルプロジェクト」、「日本の木材活用リレー」等） 持続可能性配慮に対する理解と行動促進に向けた情報発信の推進（国連、大会パートナーとの連携等） 	<ul style="list-style-type: none"> 認証を受けたマネジメントシステム（ISO20121）を活用 幅広い参加型プロジェクトによる自発的行動の浸透（持続可能性に関連したプロジェクトの推進・リサイクル意識の啓発） 観客、市民などの持続可能性の重要性の理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な様々な資源利用や水素利活用の取組継続 具体的かつ継続的な取組を日本全国で幅広く推進することにより、東京2020大会を契機とした日本の持続可能な社会への期待

5 ※上記は現在の案であり、内容については大会後に改めて精査する。

第四章 文化

基本的な考え方

文化はスポーツと同じく、人々に感動を与え、豊かな人間性を涵養し、想像力と感性を育むなど、人間が人間らしく生きるための糧となるものである。これは正に、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においても、その重要性が謳われている。

文化の各種取組は、全国どこにいても、誰もがオリンピック・パラリンピックに参加することを可能にするものとし、より多くの人々をオリンピック・パラリンピックに巻き込んでいくものとする。また、全国各地でオリンピック・パラリンピックの成功に向けた機運を醸成していくことにおいて大きな役割を果たすことができるよう取り組む。

レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
日本文化の再認識と継承・発展	日本文化の価値を再認識するとともに、次世代へ継承し、発展していく取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化資源を活用した取組を通じた日本文化・地域文化への自信・誇りの醸成 国内外での日本文化の公演や展覧会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化や芸術の再認識 日本文化に対する自信や地域への誇りの創出
次世代育成と新たな文化芸術の創造	文化芸術の創造活動環境を整備することで、文化芸術による新たな価値を創造すべく取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> 次代を担うクリエイターによる新たな芸術表現の創出 政府、地方自治体、企業によるアーティストや文化団体への支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 人々の交流を通じた新たな表現や、文化の創出 次代を担う若手アーティストの活躍
日本文化の世界への発信と国際交流	日本が持つ伝統文化と現代文化が共存するなど、独自性と多様性を持つ日本の文化の魅力を世界に発信する取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> 海外アーティストとのコラボレーションや多様な分野による共同プロジェクトの増加 文化芸術を通じた国際交流の機会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術を架け橋にした国際交流事業の定着 多種多様な文化を海外に発信するノウハウの継承
全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化	文化事業を通じて様々な主体が連携・参加・交流できる場や機会を創出し、地域を活性化すべく取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治体や団体における文化芸術プログラム及び参加者の増加 アクセシビリティや多言語対応の充実により障害者や外国人などあらゆる人々が文化プログラムに参加できる機会が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が主体となって参加できる芸術祭の定着 全国各地における地域活性の更なる促進

6 ※上記は現在の案であり、内容については大会後に改めて精査する。

第四章 教育

基本的な考え方

- ・教育は、豊かな人間性を涵養し、人格の完成を目指し、ひいては社会の形成者を育成していくことを目的とするものであり、スポーツもその重要な一角をなすものである。
- ・これは正に、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においてもその重要性が謳われている。
- ・教育の各種取組は、より多くの人々をオリンピック・パラリンピックに巻き込んでいくこと、全国各地でオリンピック・パラリンピックの成功に向けた機運を醸成していくことにおいて大きな役割を果たす。

レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校「ようい、ドン!スクール」の認証 ・ オリンピック・パラリンピック関連教材等の活用促進(OVEP、I'mPOSSIBLE、学習読本等) ・ アスリート等による学校訪問イベントの実施(「東京2020フラッグツアー学校訪問」、「夢・未来プロジェクト」等) ・ 観戦機会の提供(「学校連携観戦チケット」等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国でオリンピック・パラリンピック教育を実施(認証校数、教材活用数、イベント・プログラム実施件数及び参加者数等) ・ 児童・生徒におけるスポーツへの興味関心の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック・パラリンピック教育の実施基盤の構築 ・ 児童・生徒における心のレガシーの創出(「自信と勇気」「多様性の理解」「主体的・積極的な社会参画」)
多様性に関する理解～障がい者への理解・国際理解～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者理解の促進(「I'mPOSSIBLE活用促進」、「スマイルプロジェクト」等) ・ 国際感覚の醸成(「東京2020高校生英語スピーチコンテスト」、「世界ともだちプロジェクト」等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒における共生社会での交流意欲の向上 	
主体的・積極的な参画と大学連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京2020大会の準備・運営への参画機会の提供(「東京2020マスコット小学生投票」、「競技の支援」等) ・ 児童・生徒におけるボランティアマインドの醸成(「東京ユースボランティア」等) ・ 大学連携の枠組みを通じた取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国での大会開催機運の醸成(プログラム参加者数等) ・ 児童・生徒における社会参画意識の向上 	

第五章 経済・テクノロジー

基本的な考え方

(経済)

東京2020大会を契機とし、東京を世界から人材・情報・資本が集まる世界のビジネス都市としてさらに発展させるとともに、大会の経済効果を日本全体に波及させ、日本が世界の先頭に立って課題を解決する国家として力強い姿を世界に示していく。

(テクノロジー)

東京2020大会を、日本の最先端のテクノロジーを世界に発信する絶好の機会であると捉え、様々な分野でのテクノロジーの実証実験・エンターテインメントとしての魅せるテクノロジーの活用、最先端テクノロジーの東京2020大会への実装などに取り組む。

	レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
経済	<ul style="list-style-type: none"> 高性能な経済の構築 地方や中小企業、多様な人材等の底力の発揮 高齢化先進国への挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> 交通需要マネジメント(TDM)・テレワーク・時差出勤などを企業・個人に対し普及啓発 大規模な技術展示会(カウントダウンショーケース・CEATEC)と連携 大会を契機とした様々なビジネス情報を全国の中小企業に提供するポータルサイト(ビジネスチャンスナビ2020)を構築 多言語翻訳アプリや、音声情報を文字情報に変換する仕組みの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体で東京の混雑を緩和 2020年に向けた技術展示会に多くの企業が参加し、技術力の高さをアピール 中小企業の受注機会の拡大 多言語翻訳アプリの導入により、言語のバリアフリー化を促進 	<ul style="list-style-type: none"> 交通混雑対策・働き方改革の推進により、より働きやすい社会を創出 日本の高い技術力を世界へ発信することで、今後のジャパンプランドの復権に寄与 中小企業へのビジネスチャンス創出により、日本経済の持続的な発展へ貢献
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> 映像や多言語対応等による感動の共有 障がいや年齢、性別、国籍を超えた、人に優しいバリアフリー(For ALL) 防災・防犯・サイバーセキュリティ等における高信頼・高品質の安全 環境に優しい水素社会の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 5GやAIを活用した、競技観戦をより楽しめる様々な取組の実施 大会において実際に役に立つロボットを稼働させることを目的とした「東京2020ロボットプロジェクト」の推進 関係者の大会時の入退場に活用される顔認証システムを導入 水素ステーションを設置し、大会関係の車両に水素燃料を使用した車を多く活用 	<ul style="list-style-type: none"> 競技会場及びその周辺に、様々な種類のロボットを導入 約30万人の関係者向けに顔認証システムを導入し、スムーズかつ強固なセキュリティによる入退場を実施 大会関係車両の約9割を電動車が占め、大会史上最高レベルでの環境負荷軽減を実現 	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転・顔認証・水素技術等の新しいテクノロジーの社会への浸透 人とロボットが共生する未来の社会の形を提示 今後の大規模イベントに対する、ICTが活用された新たなセキュリティ対策の土台構築 水素ステーションの活用による、日本初の水素供給システムの実現へ寄与

第六章

復興・オールジャパン・世界への発信

基本的な考え方

(復興) 東京2020大会は、現在の被災地の姿を世界に示す絶好の機会であることから、復興に向かう今の被災地の姿を示すとともに、震災時に世界から受けた支援に対する感謝の気持ちを示すの場となるよう取り組む。

(オールジャパン) 多くの人・団体が様々な形で東京2020大会に参画し、日本全体にポジティブな影響をもたらすよう取り組む。

(世界への発信) 日本の文化・伝統、経済・テクノロジー等を改めて世界に知ってもらい、大勢の外国人を日本に呼び込む機会となるよう取り組む。

	レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
復興	被災地復興への後押し	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方で競技を開催（野球・ソフトボール・サッカー） 被災地から様々な形で大会へ参画できるよう取組を推進（東京2020復興のモニュメント事業等） 復興状況の発信（海外メディア向け被災地取材ツアー等） 	<ul style="list-style-type: none"> 被災地への来訪者数の増 被災地でのスポーツ実施率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 風評被害の払しょくによる更なる産業振興 情報発信の継続による記憶の風化防止
オールジャパン	オールジャパンでの参画	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが大会に参画でき、日本全体での関心を高めるための取組を実施（各地でのライブサイトの実施、全国の小・中学生からのポスター募集等） 全国の自治体・団体が、多数の人々が幅広く参加できるイベント等を、参画プログラムとして実施 ホストタウンの取組を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 全国での大会開催機運の醸成（観戦者数、参画プログラム参加者数等） ボランティア参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> 全国各地での地域のつながりの創出 地域連携の仕組みづくりのノウハウの継承 大会を契機としたボランティア文化の定着
世界への発信	<ul style="list-style-type: none"> 観光の活性化 日本の魅力等の世界への発信 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人々が東京2020大会や日本の魅力等に関する情報を自由に発信できる公式の拠点を整備 多言語対応の強化等により外国人旅行者の受入環境を向上 	<ul style="list-style-type: none"> 全国各地への訪日外国人旅行者の増 インバウンド消費の増 日本の文化等の魅力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 観光産業の継続的な発展 外国人旅行者の受入促進による人的・文化的な交流機会の創出 情報発信のノウハウの継承

9 ※上記は現在の案であり、内容については大会後に改めて精査する。

第七章

東京2020参画プログラム

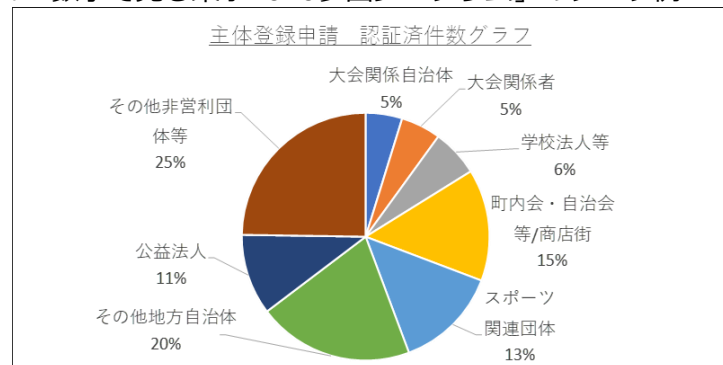
プログラムの趣旨

- 東京2020大会の機運醸成・盛り上げ等に向けて、多くのアクションが実施され、できるだけ多くの方々や団体が主体的に参画できるよう推進する。
- レガシー創出につながるアクションを日本全国で推進するために、コンセプトを共有し一定の基準を満たす取組を認証する。それらをきっかけに、アクションの主体者及び参加者を通じて社会にポジティブな成果が生まれるよう促進する。

項目	内容
1.東京2020参画プログラムとは	参画プログラムの目的
2.プログラムの仕組み	参画プログラムの対象団体・構成・マーク・実施利点・認証要件・特設サイト
3.東京2020参画プログラムの歩み	ホストタウンアクション・祭りプログラム等の特別プログラム及びカウントダウン連携企画の歴史・成り立ち
4.数字で見る東京2020参画プログラム	全申請データ(認証件数・参加者数推移)から読み取れる参画プログラムの成果・レガシー
5.東京2020参画プログラムの実績報告	アクション実施後の主体者へのアンケート結果や、実際のアクション実施風景について、 主体者の感想・コメント を交えて紹介
6.プログラム参加団体・アクションに参加した皆さんの声	参画プログラム参加者へのインタビュー効果・反省点・レガシーとして次世代に残したいこと等、参加者の立場からの意見を掲載



「4.数字で見る東京2020参画プログラム」のデータ例



10 ※上記は現在の案であり、内容については大会後に改めて精査する。

第八章

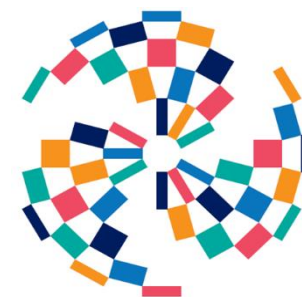
東京2020 NIPPONフェスティバル

基本的な考え方

「東京2020 NIPPONフェスティバル」とは、2020年3月下旬から9月末までを会期として実施した東京2020大会の公式文化プログラムであり、東京・日本へ世界からの注目が集まるこの時期に、日本が誇る文化を国内外に強く発信していく。
また、大会後の共生社会の実現を目指して、多様な人々の交流を生み出すことや、文化・芸術活動を通して多くの人が東京2020大会へ参加できる機会をつくり、文化オリンピックの集大成として大会に向けた機運を最大化することを目的に実施する。

主催プログラム	テーマ	内容
キックオフ (2020年4月)	大会に向けた祝祭感	東洋と西洋を代表する舞台芸術の融合（歌舞伎とオペラ）による世界初の舞台を東京2020大会で実現
オリンピック直前 (2020年7月)	参加と交流	日本文化を通じて様々な人々が交流する場・イベントを創出。世界の心を1つにするフィナーレを実施
パラリンピック直前 (2020年8月)	共生社会の実現に向けて 「ONE -Our New Episode-」	障がいのある人やLGBTを含めた多様な人々が参画し、街中で様々なアートやパフォーマンス活動などを展開
東北復興 (2020年5月～7月)	東北復興 「しあわせはこぶ旅～モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ～」	東北各県と連携し、巨大人形「モッコ」と共に東北各地を舞台とした文化プログラムを展開、国内外へ東北の現在の姿を発信

【フェスティバルマーク】



東京2020
NIPPON
フェスティバル

【キャッチフレーズ】

Blooming of Culture

文化は、出会いから花開く。

アクション&レガシーレポート策定に向けたスケジュール等について

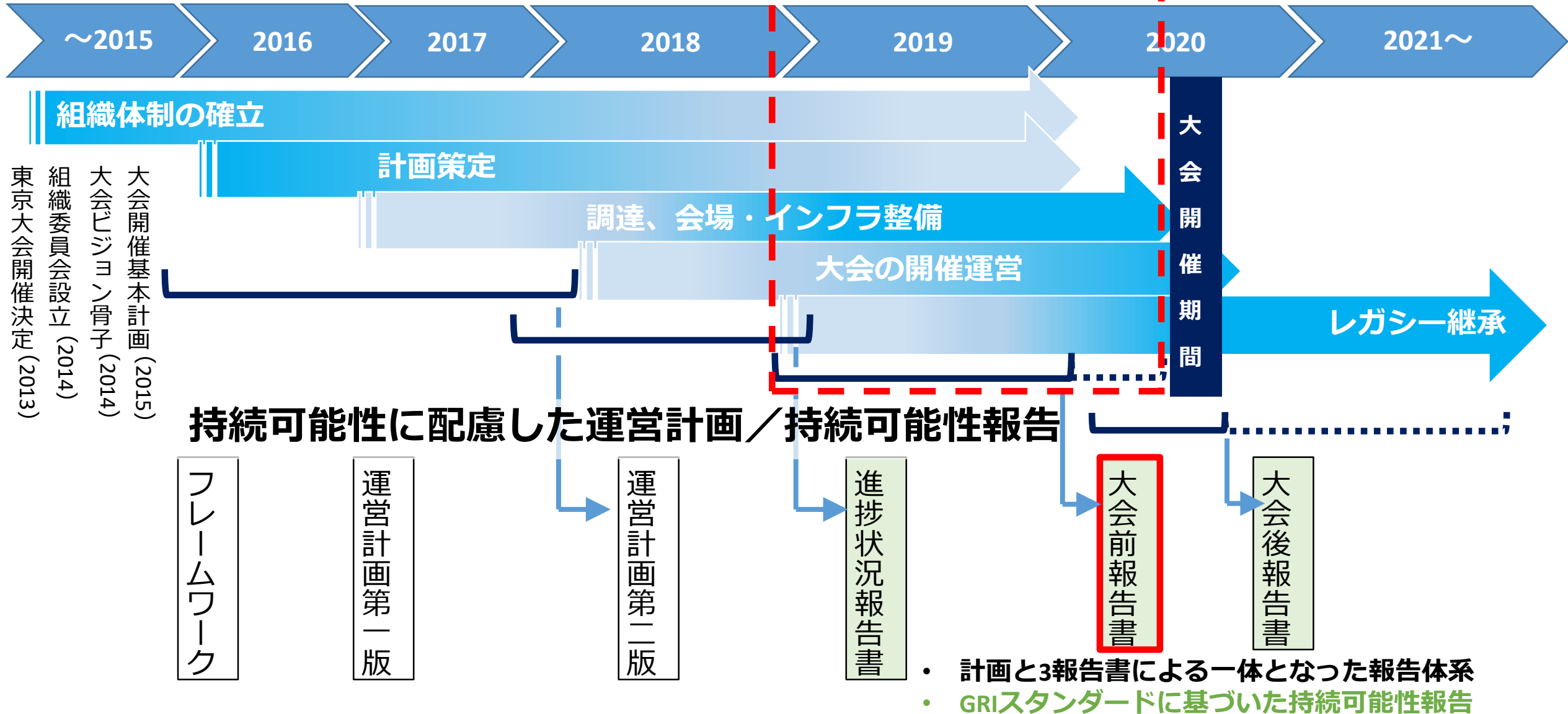
- 専門委員会でのご指摘やご意見、また、大会における実績や評価等を付加し、全体文案を作成する。
- 2020年10月を目途に各委員長、各委員に持ち回りで文案をご確認いただく。
- 2020年11月～12月、アクション&レガシーレポート公表予定（日・英）
* 具体的な、公表媒体、方法等については別途検討

なお、アクション&レガシーレポートの最終確認の進め方については、各委員長と別途相談させていただきます。



持続可能性大会前報告書

東京2020大会のフェーズの進行と持続可能性報告の体系



持続可能性大会前報告書の特徴

- 3回の報告書の中で、中心となる報告書
 - 大会開催前に発行される最後の報告書であり、“**持続可能性に配慮した東京2020大会はこのように開催される**”という姿を示すもの
 - 国内外からの大会への関心が高い時期に公表され、大会の機運醸成にとって重要な手段
 - 記録・知的資産（レガシー）としても重要
- 概要レポート “Sustainability Highlights”の作成
 - メインレポートに加え、“見て、感じる・わかる” 概要レポート（約30ページ）を作成することで、大会の持続可能性の成果や意義について分かりやすく紹介し、幅広い読者に内容を発信
 - 持続可能性の潮流における東京2020大会の意義を提示
 - 主要テーマの意義、具体的な取り組み事例とそのレガシーを記載

持続可能性大会前報告書（メインレポート）の構成案

組織委員会トップ等によるメッセージ

持続可能性に配慮した大会に向けての基本理念

組織委員会及び大会関係者

本報告書について

報告の計画、枠組み、対象範囲、対象期間、
関連する報告・情報公開、マテリアリティ など

東京2020大会 持続可能性の主要テーマ

主要テーマとSDGs

組織委員会：組織体制の変化

大会開催を支える組織体制
事務局体制の改編
会場を軸とした体制への移行 など

持続可能性マネジメントシステム

ISO20121認証の取得、導入の意義
ガバナンス体制、多様な方々との対話 など

主要テーマの進捗状況

気候変動

資源管理

大気・水・緑・生物多様性等

人権・労働、公正な事業慣行等

参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

持続可能性に配慮した調達

会場整備

会場ごとの各テーマ取り組みの詳細

大会開催運営の準備

輸送・交通、ボランティア、ユニフォーム、チケット、
聖火リレー、開閉会式 など

レガシー継承

付録

GRIインデックス
テーマ・会場整備関係の実績詳細 など

持続可能性大会前報告書（メインレポート）の記載内容の概要

1.1 持続可能性に配慮した大会に向けての基本理念

- ・過去に深刻な公害問題を克服し、成熟社会となった日本及び東京は、気候変動や天然資源の枯渇、生物多様性の喪失、差別等の人権問題など、持続可能性に関する世界共通の課題に直面している。
- ・世界は、SDGsに向けて、これまでの社会経済活動のありようを抜本的に変革しようとしている。
- ・その中で、東京2020大会は、スポーツを通じて持続可能な社会に向けた課題解決への責務を率先して果たしていく。
- ・東京2020大会が、持続可能性に統合的に取り組むことで、「持続可能な社会のショーケース」として将来に向けた歩みの規範となり、持続可能な社会の実現に向けた更なる行動を後押しする。そのビジョンや取り組みが国内外で継承され、発展していくことで、「スポーツには世界と未来を変える力がある」ことを示していく。

1.2 組織委員会及び大会関係者

1.3 本報告書について

2. 持続可能性の主要テーマ

主要テーマとSDGsとの関わり

3.1 組織委員会：組織体制の変化

会場を軸とした体制への移行（ベニューアイゼーション）について、ゲームズデリバリー体制の構築及び活動、テストイベントとオペレーショナル・レディネス（OPR）活動を記載

3.2 持続可能性マネジメントシステム

・ ISO20121

- 持続可能性への取り組みを着実に進めるため、イベントの持続可能性をサポートするためのマネジメントシステムであるISO20121に則したマネジメントシステムを導入
- ISO20121の第三者認証を取得し、2019年11月22日に認証授与式を実施
- 認証を受けたマネジメントシステムを活用し、東京2020大会が持続可能な大会となるよう、引き続き取り組みを推進



テストイベント現地審査

・ ガバナンス体制

- 持続可能性に配慮した運営方針・計画を策定
- 推進体制の整備のため、各FAに持続可能性(SUS)の責任者・担当者を設置
- 持続可能性の意識・重要性を組織内に浸透
 - ▶ 組織委員会内の各種会議の場での情報・知識の共有
 - ▶ 全ての職員に対する研修の実施
- 取り組み内容の改善や見直しを継続的に実施



ISO20121認証授与式

・ 多様な方々との対話

- 街づくり・持続可能性委員会、持続可能性ディスカッショングループ、各ワーキンググループ等の各分野の有識者をはじめとする多様な方々（マルチステークホルダー）との情報提供及び意見交換を引き続き実施

4.1 気候変動

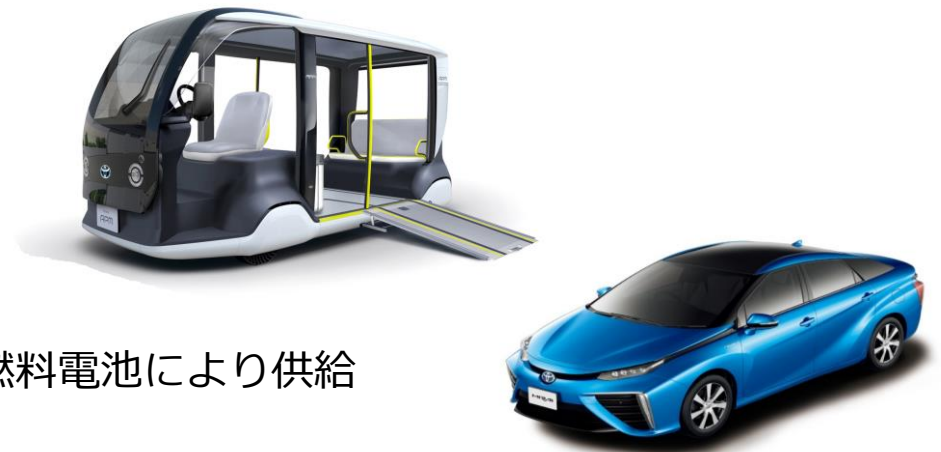
概要

大会のカーボンフットプリントを把握した上で、計画変更などによりCO₂等の排出を回避し、省エネなどの具体的な排出削減対策を実施している。それでも排出を避けられないCO₂等については、カーボンオフセットを実施するなど、Towards Zero Carbon の大目標実現に向けてカーボンマネジメントに取り組んでいる。

具体的施策

- **大会期間中の使用電力は、再生可能エネルギー電力100%を目指す**
 - 電力会社から発電元が明確な再エネ電気メニューを調達（被災地で発電された電気も含めて調達を予定）
 - 会場に設置された再エネ発電設備の利用、恒久会場における、再エネ比率の高い電気の活用を推進
 - グリーン電力証書等による再エネ化に向けて調整中（既存会場契約など再エネ由来の電気ではない部分）
- **環境負荷の少ない輸送**
 - 大会関係者の利用する乗用車に、燃料電池自動車を500台活用
 - 会場内の輸送などに電気自動車を活用
- **水素の活用**
 - 聖火台や聖火リレートーチの一部の燃料を水素で賄う
 - 選手村内の宿泊施設の一部や選手の休憩施設の電気を純水素型燃料電池により供給

※一部に福島で製造された再エネ由来水素を活用する予定



具体的施策

- **カーボンフットプリントの把握**

競技会場の計画見直しや省エネ対策、調達物品のリース・レンタル契約の推進、また、再エネ電気の利用などの削減対策を実施する結果、カーボンフットプリントは約300万t-CO₂から減少。

- **東京2020大会のカーボンオフセットへの協力**

東京都・埼玉県にはクレジットが300万t-CO₂以上寄せられており、その一部が東京2020大会のカーボンオフセットへ充てられる。

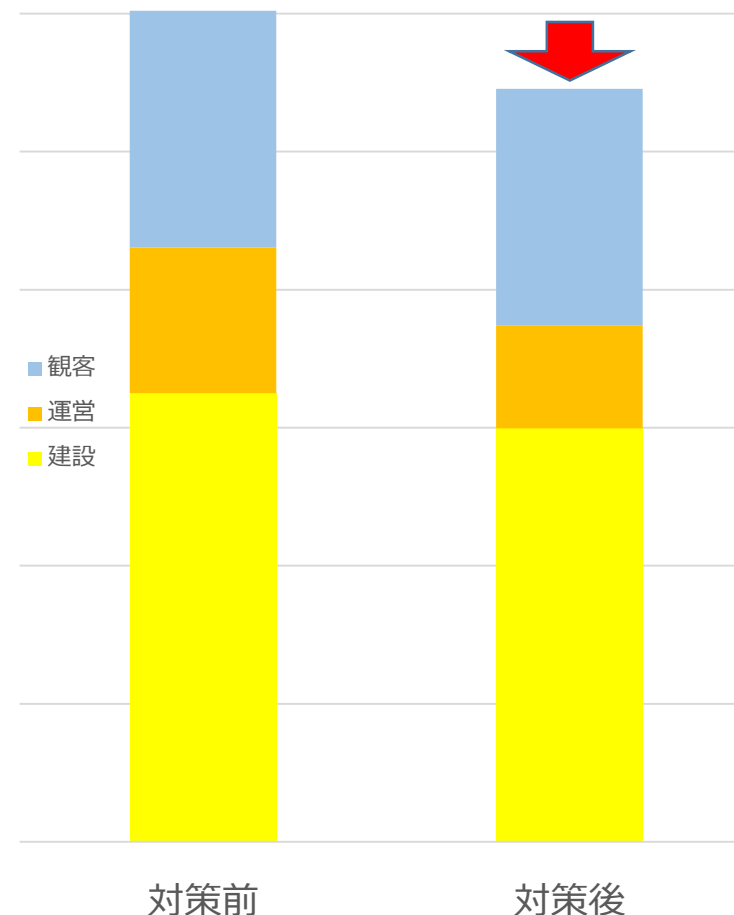
2020年2月7日現在公表数値

東京都クレジット*1	2,679,130 t-CO ₂
埼玉県クレジット*2	470,609 t-CO ₂
合計	3,149,739 t-CO ₂

*1 「ゼロエミッション東京」(東京ゼロカーボン4デイズ in2020 の72万t-CO₂ を含む)

*2 「ゼロカーボン埼玉」(ゼロカーボン3デイズ in2019の約5万t-CO₂を含む)

東京大会のカーボンフットプリント



- **市民によるCO₂削減・吸収活動の状況**

申請件数は7件、参加者数は10万人を超えた。

(取り組み例：市民の省エネ活動・緑のカーテン・廃食用油バイオディーゼルの利用など)

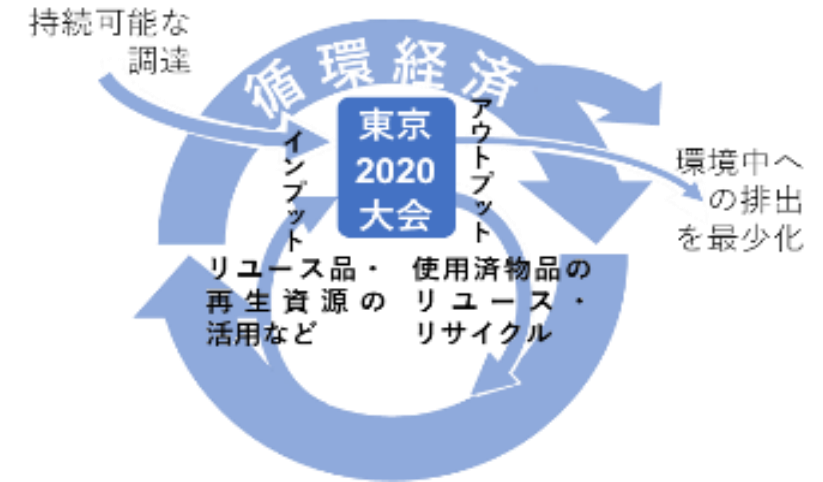
4.2 資源管理

概要

資源を一切ムダにしないよう、資源の有効な利用など持続可能性に配慮した物品の調達・プロジェクトに取り組むとともに、大会後の再使用・再生利用を進めている。

具体的施策

- ・ **大会時の使い捨てプラスチックに対する取り組み**
 - 観客等の会場での食事に係る容器について、東京都と連携し、使い捨てプラスチックの使用量削減を推進(事業者と調整継続中)
- ・ **使い捨てプラスチックを再生利用した表彰台プロジェクト**
 - 市民の協力により、リサイクル材で大会の表彰台を作成
P&G社の協力を得て日用品の使用済みプラスチック容器を回収
使い捨てプラスチック等の課題の意識啓発
- ・ **会場から出る廃棄物のリサイクル** (運営時廃棄物の再使用・再生利用率目標：65%)
(※参考：日本の産廃の再生利用率：約53%(2016年実績))
 - 分別：リサイクル先ごとにゴミを分別。(観客エリア：5～6種類)
 - 東京都等と連携し、一部会場のごみ箱周りで、観客のごみ分別をサポート(分別ナビゲーター)
 - 取り組みを通じて、適切な分別の確保、分別する意義・リサイクルの重要性を発信



ごみ分別のサポート(イメージ)

具体的施策

・入賞メダル、聖火リレートーチ、ユニフォームへの再生素材利用

- 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を通じ、使用済み小型家電から得られたリサイクル金属を原材料に入賞メダルを製作
- オリンピック聖火リレートーチ、パラリンピック聖火リレートーチには、復興への想いを込めるとともに持続可能性に配慮
トーチの素材の一部には、東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材を再生利用
- オリンピック聖火リレーランナーのユニフォームには、ペットボトルをリサイクルした素材を再生利用

・調達物品の再使用・再生利用

(調達物品の再使用（レンタル・リース含む）・再生利用率目標：99%)

- 仕組みづくり：調達物品の管理と再使用・再生利用など処分について、規程・システム・財産管理処分委員会などの仕組みを策定し、推進中
- リユースの取り組み：調達決定から早期に処分先を決める取り組みを推進。共同実施事業により調達する物品については、東京都と連携し、できるだけリユースが進められるよう、実施に向けた調査を行っている
- レンタル・リースの活用：机や椅子、棚等の什器類及びパソコンは、可能な限りレンタル・リースを活用



再生素材を利用した入賞メダル(上段)、
聖火リレートーチ、ユニフォーム(下段)



大井ホッケー競技場の仮設の照明は
大会後も会場で活用

4.3 大気・水・緑・生物多様性等

概要

東京2020大会の開催が、豊かな生態系ネットワークの回復・形成と、快適さ・レジリエンスを向上させる新たな都市システムの創出に一層寄与し、東京が成熟した都市として将来にわたって存続・発展できるよう、多様な主体の参加や協力を得ながら、自然と共生する快適な都市環境の実現に向けた取り組みを実施している。

具体的施策

・暑さ対策

- 国や東京都と連携しながら、きめ細やかな暑さ対策を推進
 - ・対象：観客向け、大会スタッフ向け、アスリート向け、メディア向け
 - ・視点：施設整備、飲料供給、予防運営、救護医療、情報発信
- 自治体や企業など多様な主体が取り組みを推進（クールスポット・クールエリアの創出など）

・大会における水環境への配慮（お台場海浜公園）

- これまで行った水温水質調査等も踏まえ、本大会時に効果の高い三重スクリーンを設置（予定）

・都市における水環境機能の向上

- 強雨時の汚濁負荷量を削減する下水貯留施設、下水処理水の水質を改善する高度処理施設等の整備が進展



クールエリア整備事例
(調布市飛田給駅周辺)

具体的施策

・競技会場等の緑化

- 既存樹木を極力保存するとともに、移植や在来種を用いた植樹を行うなど、景観に配慮した緑化を実施

・緑地・水辺空間の創出と良好な景観の形成

- 河川の水辺空間を緑化するとともに、街路樹や河川の緑との有機的なつながりに配慮した公園整備を進め、水と緑のネットワークを創出（東京都）
- 民間事業者や区市町村等と連携した、街を花と緑で彩る取り組みを実施（東京都）
- 一定規模以上の都市開発において緑化を義務付け、緑の創出を推進（東京都）



花と緑の景観形成（葛飾区）

・自然環境の再生と生物多様性の確保

- 葛西海浜公園では、ラムサール条約湿地登録（2018年10月）を受け、自然環境を保全するとともに、持続的な干潟の利活用を一層推進（東京都）
- 競技会場等で危険な外来生物（ヒアリなど）が発見された場合には、国や区市町村と連携し適切に対応



スズガモ（葛西海浜公園）

4.4 人権・労働、公正な事業慣行等

概要

人権尊重を根本としてお互いの多様性を認め合う、誰もが主役の開かれた大会とするよう、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則って、大会に関わる全ての人々の人権・労働等を尊重した準備・運営を進めている。

具体的施策

・ダイバーシティ & インクルージョン (D&I)

- 多様な人材の確保とD&I意識の浸透： 大会ボランティア募集に20万人以上の応募
約120国・地域から約8万人とのマッチングを行い、研修中
- 大会施設・運営計画へのD&I視点の反映： トイレ、料理、礼拝スペース、セキュリティ対応、
ユニフォーム、聖火リレーランナー等
- ステークホルダーへのD&Iの発信： スポンサーとの連携によるイベント、Diversity & Inclusionコレクション
(ピンズ、白黒反転文具、指文字Tシャツ、エンボスTシャツ)

東京2020大会におけるD&Iの
アクションワード

**Know Differences,
Show Differences.**

ちがいを知り、ちがいを示す。

D&Iピンズ

D&Iへの理解を広めることに繋がる、オリンピックとパラリンピックのエンブレムが初めて並んで付いた東京2020公式ライセンス商品。
CULTURE・SOGI・GENERATIONSの3つをコンセプトとし、2種類のタイプを販売。



「多様性」を象徴する大会エンブレムの市松を用いて、「個性」を発揮するさまざまな「人」を表す。

CULTUREをパンゲア大陸、GENERATIONSを各世代のピクトグラム、SOGIを6色レインボーカラーで示す。



白黒反転文具

誰もが見やすく、視覚に障がいのある方にも使いやすいデザイン。



具体的施策

・アクセシビリティ

- 移動支援： 国、関係自治体、公共交通機関等と連携し、観客に、空港や観客想定利用駅から会場までの一貫したアクセシビリティを確保。ハード整備に加えソフト面での対応を実施
選手・大会関係者に、アクセシブルな車両を運行
- 情報保障： 公式ウェブサイト・アプリ、刊行物において、視覚・聴覚障がい者や6か国語の対応
大会会場等における情報表示やアナウンスにおける、多言語表記、ピクトグラム、点字サイン、音声表示技術
- 施設整備： 会場施設や空港・駅・道路、ホテルで、バリアフリー化等を推進

・労働・活動環境への適切な配慮の実践

- 組織委員会が、PRIDE指標2019*で「ゴールド」受賞
*職場におけるLGBTなどのセクシュアル・マイノリティへの取り組みを評価する制度

・人権対応体制・人権相談窓口

- 大会開催時に（特に会場における）人権・労働等の問題を適宜把握し対応する体制について整備
- ヘイトメッセージ、差別的言動やハラスメント等に対して毅然とした対応をとり、大会の安全で円滑な運営と誰もが楽しめる雰囲気づくりとの調和を図る会場運営の方法について、有識者を交えて検討
初動対応に係るガイドラインに相当するツールの作成等を実施

4.5 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

概要

誰もが主役の開かれた大会の実現に向けて、ステークホルダーエンゲージメントを推進するとともに、持続可能な社会の構築に向けた自発的な行動が社会に浸透するよう、大会の取り組みの社会への共有・発信を進めている。

具体的施策

・ 様々な主体との連携・協働

- 国連と連携し、SDGsへの貢献を発信
- 被災地のメッセージを載せた「復興のモニュメント」を大会関連施設に設置し、大会後は被災地に設置。デザインの決定には被災地の中高生が参加
- 東京都と連携し、会場内で観客のごみの分別指導を行う「分別ナビゲーター」を配置



開発と平和のためのスポーツの国際デー記念イベント（2019年4月）

・ 次世代への教育と参加機会の創出

- 東京2020教育プログラムや東京都の「オリンピック・パラリンピック教育」等において持続可能性に関する教育や教材の作成等を実施
- 「出張講座プログラム」における持続可能性に関する講義等を通じて、大学との連携を促進

具体的施策

・国民参加型プロジェクト

- 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト
大会1年前に成果を発信。環境省による「アフターメダルプロジェクト」等を通じて、小型家電の回収が継続
- みんなの表彰台プロジェクト
使用済プラスチックから表彰台を製作し、使い捨てプラスチック活用の新しいモデルを発信
- 東京2020参画プログラム
22,000件以上の持続可能性に関するアクションを認証



みんなの表彰台プロジェクト
合同記者発表会
(2019年6月)

・持続可能性への理解と行動促進に向けた情報発信

- 「東京2020スポGOMI大会」等を通じ、大会パートナーやアスリートと連携して発信
- 2019年6月のG20大阪サミットにおいて大会の持続可能性をPR
- 大会期間中の持続可能性に関する情報発信
 - ▶ ごみの分別等来場者への発信や、メインプレスセンター内でメディア向けの発信スペースを設置予定
 - ▶ 「東京2020 NIPPONフェスティバル」において「共生社会の実現」をテーマとした文化プログラムを展開

4.6 持続可能性に配慮した調達

概要

東京2020組織委員会では、「持続可能性に配慮した調達コード」の運用を通じて、調達における持続可能性配慮を推進している。

持続可能な調達や通報受付窓口（グリーンバンス・メカニズム）の普及につながる多くの動きなどポジティブな変化が見られる。

持続可能な調達は、日本ではまだ新しい取り組みであり、持続可能性に対する考え方についてもステークホルダーによって様々な意見がある。一足飛びにいくものではないが、東京大会を契機に、事業者や消費者における持続可能性配慮が普及することが重要。

具体的施策

サプライヤー／ライセンサーとのコミュニケーション

- 東京2020組織委員会では、サプライヤーやライセンサーから提出されるチェックリストの確認とヒアリングを継続的に実施。また、大会期間中に活動する委託事業者向けに調達コードを改めて周知。



委託事業者向け説明会

具体的施策

持続可能性に配慮した木材等の調達

- 木材、農・畜・水産物、紙、パーム油について、各調達基準に基づく調達を進めている。
- 有明体操競技場の事例では、主に森林認証を利用して調達基準に対応。認証材の価格上昇や分別管理等にかかる手間の面で負担が増えるなどの苦労もある。森林認証に関する知識・経験の乏しい事業者も多かったと思われるが、東京大会の木材調達の取組が、今後の持続可能な森林管理や木材調達の普及に寄与することを期待。



木材を使用した有明体操競技場の外装

ILOとの協力

- 東京2020組織委員会では、ILOと協力し、サステナビリティ・フォーラムの開催、企業による社会的責任ある労働慣行を促進するための事例集やハンドブックの作成に取り組んでいる。

通報受付窓口

- これまで計11件の通報を受け付け。対象案件に該当する通報もあり、処理を進めている。一方で、組織委員会が調達する物品・サービス等のサプライチェーン外で提起されている問題や紛争を内容とする通報も多い。



ILOと作成した事例集及びハンドブック

5 会場整備

概要

東京2020大会の競技会場・施設の整備を通じて、最新テクノロジー等の活用による省エネルギーや水素社会に向けた都市モデルの提示、物資の調達から後利用・リサイクルに至る高度な資源循環、生物多様性への配慮・豊かな緑地の創造など、大会後のレガシーとなる取り組みを推進

具体的施策

・オリンピックスタジアム

- 「風の大庇」「風のテラス」を設置して自然の風を取り込み、観客席の温熱環境を改善
- 大屋根や軒庇に森林認証を取得した国産木材（約2,000m³）を使用
- 建設廃棄物の分別徹底等により、再資源化等を推進



風の大庇



大屋根トラスへの木材活用

・東京都が整備する恒久会場（8会場）

- 東京都建築物環境計画書制度の最高評価レベル取得、BEMS導入など、省エネルギー化を推進
- 雨水利用、ろ過施設導入（カヌー・スラロームセンター）など、水資源を有効利用
- 国産木材を積極的に活用（有明テニスの森）



カヌー・スラロームセンター



有明テニスの森
(クラブハウス・インドアコート)

具体的施策

・ 仮設会場等、オーバーレイ

- テント、プレハブ等をレンタル又はリースにより調達するなど、資源循環に配慮
- 地盤掘削を伴わない基礎形状、仮設ケーブルの地表面への設置など、工事負荷等を低減



レンタル・リース



仮設給排水システム

・ 選手村

- 全国の自治体から借用した国産木材を用いてビレッジプラザを建築し、大会後には解体した木材をお返しして各地でレガシーとして活用（日本の木材活用リレー）
- 宿泊施設は、大会期間中に一時使用し、大会後に分譲等を行う予定



ビレッジプラザ

・ 輸送デポ等

- 所有地など既存ストックを最大限活用し、整備による環境負荷を低減

・ 労働安全衛生

- 工事従事者の健康管理徹底や長時間労働の縮減など、やりがいを持って働ける職場づくりを推進

6 大会開催運営の準備

輸送サービス・交通需要マネジメント、ボランティア、ユニフォーム、チケット販売、聖火リレー、開会式・閉会式、飲食、ルック・オブ・ザ・ゲーム（大会外観）

7 レガシー継承



- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとは、大会を開催することで生じる、長期的な有形無形の資産や便益
- ・また、レガシーはオリンピック・パラリンピックムーブメントの浸透だけでなく、スポーツに関わる人々への影響、さらには市民、社会、都市、経済等の広範囲に及び、東京2020大会ビジョンを具体化したもの
- ・持続可能性に真摯に取り組むことは、レガシーの成果を最大化することに繋がり、レガシーの最大化は、強固な持続可能性配慮の基盤の上に成り立つ

・東京2020大会の成果や教訓が、大会開催後に、開催都市東京だけでなく、日本、世界の様々なステークホルダーに受け継がれ、活用されることを期待

東京2020大会の持続可能性コンセプト
Be better, together
より良い未来へ、ともに進もう。